

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

学力向上検討委員会構成

児安小学校
「学力向上実行プラン」

PBS を活用した授業の実践

- 児童の実態に応じたカリキュラムマネジメント
- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
- できるようになったことの自覚・共有につながる評価の工夫

学力向上推進員 株田 沙耶香	委員	校長	南郷 孝嘉
		教頭	田邊 幸代
		教務主任	前田 加奈
		研修主任	佐藤 淑恵
		下学年推進委員	坂口 友啓
		上学年推進委員	上原 孝太

校長

南郷 孝嘉

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○粘り強く最後まで課題をやり遂げることができる。 ○新しい技能や学習の習得に積極的に取り組むことができる。 ○課題に真面目に取り組むことができる。 ○各学年で発達段階に応じた授業規範ができていない。 ●語彙が豊かであるとは言えない。 ●学力の基礎(姿勢の保持、声の大きさ、作業のスピード等)が定着していない。 ●個人、学年による学力差が見られる。	・学習の基礎の定着を図る。 ・基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、それを様々な学習場面で活用することができる。 ・辞典や資料、ICT 機器等から適切な情報を収集し、語彙数を増やすことができる。 ・友達の意見を聞き、自分の考えを深めたり修正したりする力を身に付ける。 ・読書活動の推進を図る。	・授業の中で、自力解決の時間を十分に確保し、個別指導を徹底する。 ・身に付けさせたい知識・技能を明確にするともに、学習規律や学習方法を発達段階に応じて計画的に指導する。 ・単元の中で、身に付けた知識・技能を活用する場面を設定する。 ・児童一人一人のつまづきを捉え、学習状況の改善を図る。 ・ICT 機器を効果的に活用し、児童の個別最適な学びにつなげる。 ・月末に「チャレンジテスト」を行い、学力の定着を図る。			

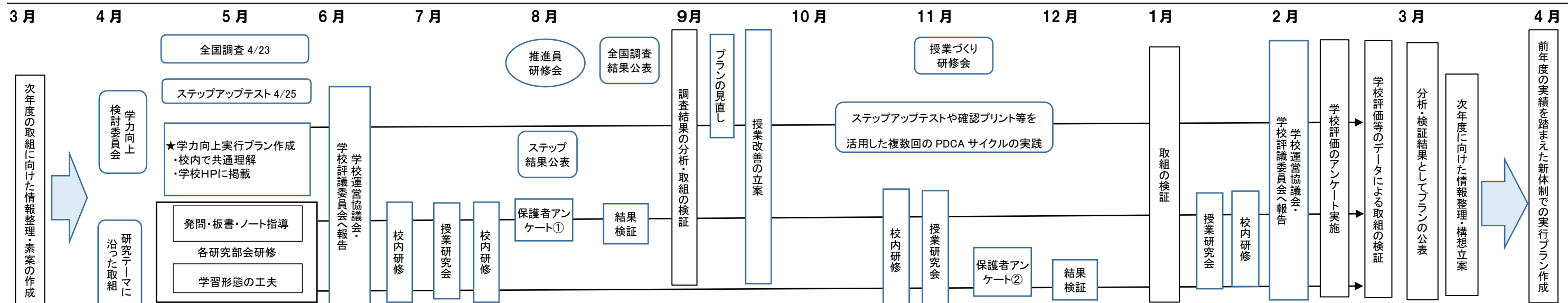
(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを進んで手を上げて発言できる児童が多い。 ○話し合い活動に積極的に参加し、自分たちで意見を出し合い交流することができる。 ●友達の意見を否定することはないが、全てをよいと認めてしまう傾向がある。 ●大切なことや話の要点を理解する力が不十分である。 ●課題についてじっくり考えたり思考を豊かに表現したりする力が不十分である。	・多面的な見方や考え方ができ、自分の考えを一人ひとりがもち、それを伝えたり、友達の意見を認めたりすることができる。 ・表現するために必要な基本的な語彙を習得したり、表現の仕方を深めたりすることができる。 ・学習活動に積極的に取り組み、自分の意見や考えに自信をもって発表することができる。	・学習課題を明確にし、問題解決に向かって個別に学ぶ場面と協働的に学ぶ場面を授業にしっかり位置づける。(カリキュラムマネジメント) ・自分の考えや立場を筋道を立てて話したり書いたりすることができるよう、発達段階に応じた指導計画を立てる。 (話し合い活動の時間の確保)			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○読書活動の充実を図っており、読書が好きな児童が多い。</p> <p>○できるようになったことを続ける力がある。</p> <p>○課題解決に向けて、主体的に取り組もうとする児童が多い。</p> <p>●基本的な生活習慣が不十分な児童がいる。(早寝やメディア時間、朝ご飯等)</p> <p>●主体的に取り組む場面での二極化(積極的と消極的)が進み、固定化されている。</p> <p>●家庭と連携した「おうち読書」の定着が課題である。</p> <p>●宿題の提出率は高いが、自主学習の時間は、個人差が大きい。</p>	<p>・目標をもって読書や学習に向かい、疑問点や興味関心のある事柄を進んで調べたり学習を深めたりできる。</p> <p>・学習過程において、学びを振り返り、学習の達成度や自分のよさ、今後の課題等を自覚することができる。</p> <p>・自分の「できる」「できた」を増やし、達成感を味わい、進んで学習に取り組むことができる。</p>	<p>・調べ学習や豊かな読書を推進するために、ICT機器や図書等、言語環境や学習環境を整備する。</p> <p>・ポジティブな行動支援を年間を通して計画的に取り組む。</p> <p>・児童のできたことを可視化して賞賛する。</p> <p>・「児安ブックリスト」「おうち読書」「スマイル読書」等を活用し、読書をする時間を意図的に設け、読書推進活動を実施する。</p>			

令和6年度 学力向上ロードマップ



学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- わかりやすい発問により、生徒の思考を深める授業の実践
- 認め合い、話し合い、学び合う授業の実践

〇〇学校
「学力向上実行プラン」

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
---------	----

校長

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能が身に付いていたり、与えられた課題にもまじめに取り組みたりできる生徒が多い。 ●長い文章を正確に読み取ったり、身に付けた知識等を関連付けたりすることに課題がある。	・学習の過程を通して習得した知識が、既習の知識と関連付けられ、他の学習の場面で活用することができる。 ・身に付けた個別の技能についても、他の学習や生活の場面において活用することができる。	・何が書かれているかを捉えさせるため、教科書にアンダーラインを入れさせる。 ・生徒の興味をもって学習に取り組むことができるように発問を工夫する。 ・他学年、他教科の教員が相互に授業参観を行う。	それぞれの教科における知識等の習得をより徹底させる。さらに、身に付けた知識等を用いて課題を解決させる学習活動の場を増やす。	・アンダーラインを入れさせることはできていたが、少し多く引きすぎた。 ・工夫した発問は多くの場面でできたが、その発問に対する反応を予想することが不十分なときがあった。 ・相互の授業参観を多く行うことができた。	身に付けた知識等を表現するために、「書く」活動の機会を多く取り入れる。身に付けた知識等を実際の場面で活用できるよう、主体的・対話的で深い学びのさらなる実現を推進する。

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを発表したり、友達の意見をしっかりと聞いたりすることができる生徒は多い。 ●課題に応じて、必要な情報等を取り入れ、自分の考えをまとめたり、複数の考えから新しい考えを創造したりすることに課題がある。	・各授業における課題等に対して、話し合い活動等を通して、解決する方法を考えることができる。 ・習得、活用、探究の各場面において、適切な言語活動により表現することができる。	・ペア学習やグループ学習の機会を効果的に設定する。 ・ホワイトボードやICTを効果的に活用した発表や話し合い活動をさせる。 ・生徒の発言や発表の内容に応じ、「なぜ」、「どうして」などの更なる発問を行い、生徒の考えを深めさせる。	ペア学習やグループ学習の前には個人で考える時間をしっかりと確保する。また、生徒のつづやきを全体で共有し、課題の解決を図る機会を設定する。	・ペア学習やグループ学習の機会については適切に設定できた。 ・ホワイトボードを使用した話し合い活動は多くできたが、活用の場面での言語活動は不十分だった。 ・深い学びにつながる発問については、なかなか上手くはいかなかった。	ペア学習やグループ学習の方法、ホワイトボードの使用等では、学校や学年で統一できるところはするなど、より効果的な実践を行う。授業計画の改善を進め、生徒の活用する力のさらなる育成を図る。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各授業へ一生懸命取り組むことができる。また、家庭学習にも主体的に取り組むことができる。 ●自分の考えを客観的に捉えたり、不得意な学習内容に対して、自分で計画を立てて克服することに課題がある。	・各教科の学習に主体的に取り組むことができる。 ・自分の学習の状況をしっかりと振り返り、自らの課題を解決できるよう計画を立て、実践することができる。	・「とくしま授業技術の基礎・基本」にある、ノート指導を徹底する。 ・何を・なぜ・どのように学ぶのが生徒に伝わるよう、授業のめあてを提示する。 ・振り返りの視点を生徒に示し、記述させる。	生徒のつまずきに対して自らの問題の解決の糸口に気づくような助言を与えたり、振り返りシートについて改善を行う。	・ノートについては、ほとんどの生徒が確実に取ることができていたが、自分の考えを書かせることができなかった。 ・授業のめあてをほぼ、提示できた。 ・振り返りはさせることができたが、記述については、不十分なときもあった。	各教科において育成を目指す資質・能力の育成を図れる授業改善を進めると共に、授業のノートの取り方の更なる改善を図る。

令和6年度 学力向上ロードマップ

